

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173100718		
法人名	株式会社 彩の国		
事業所名	グループホーム 白虎ほ一む		
所在地	埼玉県熊谷市新堀8-7		
自己評価作成日	令和5年12月5日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和6年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様が自由でのんびり、出来ることを一緒に、役割を持っていただく事。自治会のイベントに参加したり、運営推進会議を開き地域の方々やご家族との交流を深めていく。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>・コロナ禍にあっても、新しい管理者のもと、地域とのつきあいは変わらず続けられ、地域の運動会や消防訓練、ごみゼロ運動などに積極的に参加され、連携が図られている。また、職員が交代で「白虎ほ一む新聞」を作成し、家族とのコミュニケーションの手段とされ、「日頃の生活状況が見られる」との評価が得られている。入居者には個々に役割を持って頂き、生き甲斐を感じていただけるよう職員のフォローも続けられている。</p> <p>・運営推進会議は、定期的開催され、事業所からの活動内容の報告に加えて家族や入居者からも発言が得られ、事業所のサービス向上に活かされている。</p> <p>・目標達成計画の達成状況についても、地域との関わりの再構築と事業所全体の防災意識の向上に取り組まれ、地域とのつきあいが幅広くなり、連携も深められたこと、また、防災意識の向上には訓練の度に、職員の役割を変えるなどを実施することで、職員の意識が向上したことから、それぞれに目標が達成されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	職員全員で共有できるよう荘内に掲示している。	入居者ができることを一緒にやっていただき、満足感を味わっていただくことが事業所としての方針とされている。入居者の残存能力を保つよう支援がなされ、身の周りの出来ることを出来る範囲で実施できるよう職員のフォローがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の活動参加 運動会・消防訓練・資源回収・ごみゼロ運動等	日常的には散歩時の挨拶などを行い、いただきものをするなどにつきあいがなされている。コロナ禍にあっても、地域との関わりは変わらず続けられ、地域の運動会や消防訓練、ごみゼロ運動などに積極的に参加され、連携が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の活動が再開されてきているので今後活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開きサービス向上に活かしている。	定期的に開催され、事業所からの活動内容の報告に加えて家族や入居者からも発言が得られるなど意見交換の場とされている。市担当者や地域包括支援センター職員からのアドバイスもあり、事業所のサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点等があった際にはその都度連絡し、協力関係を築く努力をしている。	市担当者には日常的に介護保険の運用などを中心に相談が行われ、メールや電話を通して市の情報が得られている。また、運営推進会議にも地域包括支援センター職員と共に参加をいただき、地域での市の支援などについて情報をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い職員へ周知している。	「ちょっと座ってて」などの強い口調の言葉使いには特に注意を払い、虐待防止にも努められている。事業所の取り組みや研修については運営推進会議にも出されたり、職員の悩みを聴いてあげるなどの幅広い取り組みがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や会議にて虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行っているが、話し合いや活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し理解納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や連絡時に確認し反映させている。	入居者は運営推進会議にも参加されて意見を述べたり、「外出したい」、「買い物に行きたい」などの個人的な要望にも随時対応されている。家族からは面会や白虎ホーム新聞を通して近況や生活ぶりを教えていただきありがたいなどの意見が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見を聞き反映させている。	職員の得意な役割を大切に、業務のやり方などに意見を出していただき、事業所内での共有も図られている。「こうしたらどうか」、「入居者にとってこれが良い」などの職員からの提案は積極的に行われ、その都度全体で解決案を工夫するよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職場環境等について報告・相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修に参加する機会を作り、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に同業者を招待したり、ウェブでの会議に参加しサービス向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にどのように生活したいか聞き取りを行っている。又、入居後も声掛け等を行い職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気になっていることや希望を確認し希望にそったケアを行い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所利用等関係機関と相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を探し、役割を持って頂き関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況を報告し、変化があった場合には都度連絡し話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人友人との面会は行っているが、馴染みの場には行けていない。	馴染みの知り合いからの電話や面会の取次ぎには積極的に対応されている。入居者同士が新たな馴染みを作ることもあり、世間話をしたり、昔のお笑い番組を視聴てみんなで笑ったり、歌も楽しむなど、昔のことを忘れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	都度席替えを行ったり、職員が間に入り利用者同士が良好な関係を築けるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、ご家族に相談にのることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に必ずご本人の意向を確認し、うまく表現できない場合でもご家族と相談し本人本位になるよう努めている。	「何かやりたいことは」、「飲みたい物は」などの気軽な問いかけからきっかけを作り、思いや意向の把握に努められている。入居者の言うことを否定せず、気が付いたことは職員同士で話し合うなど情報共有にも取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活履歴等聞き取りし、その方に合った生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人に意向を確認しそれぞれの意見を考慮し計画している。	居室担当や医師、家族の意見や要望を取り込んだケアプランが作成され、分かりやすいサービス内容が盛り込まれている。「訪問販売のパンを購入させてください」などの具体的な家族からの要望など、一貫性のあるプランづくりがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記入し、情報を共有しながら計画の見直しに活かす努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員・本人・家族と話し合い、都度変更しながら対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をしたり地域の行事に参加し、近隣の方との交流の機会を設け、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望している医療機関に受診している。 提携医と連携し適切な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医への受診は家族同伴が基本で、同行が困難な場合や状態を詳しく伝えたい時には看護師が同行に対応されている。医師からの情報も看護師に伝えられ、申し送り時には全職員に周知を図るよう取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、看護職と介護職で話し合い情報共有し必要な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を中心に提携医との連絡を取り、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族との話し合いは行っているが、地域の方とは共有できていない。	入居時に事業所の方針としてできること、できないことを説明し、段階ごとに医師も交えた話し合いが行われ、今後の方針や予想されるリスクなどは確認されている。緊急時対応のシートも作成され、入居者・家族の意向にも応えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しているが訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い職員が身につけられるよう努めている。 地域の避難訓練にも参加している。	入居者も参加し、地域の協力も得ながら訓練が行われている。訓練ごとに職員の役割を変え、全員が同じレベルで対応ができるよう取り組まれ、特に火を使うことから火元にならないよう細心の注意が払われている。	日常の訓練を通して、地域との協力体制を作りながら、常に課題を見つけて、解決策を作り、それを訓練に活かす取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報を共有し利用者様に合った関わり方を意識している。	入居者それぞれの生活空間である居室やトイレのドアの開閉などには特に注意を払い、プライバシーの確保に取り組まれている。朝の起床や夜の就寝時間は入居者のペースを優先するなど一人ひとりの尊重に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人に聞き自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者にとっての日課を作るようにし、一人ひとりご自分のペースで過ごして頂いている。心身の状況により、本人にとって良い過ごし方を検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気を使っているが、不十分な事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等行い、簡単な調理過程を手伝っていたりしている。準備や片付けは出来る人にやっていただくようにしている。	職員がリーダーシップをとり、おやつ作りのレクリエーションを行い、入居者も参加されるなど、「食べる」ことを楽しんでいただいている。嫌いな物は残しても構わず、食事形態などは職員間で対応を話し合いながら決められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックシートに記入する事で把握できており、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、提携歯科医が月に一度訪れ、アドバイスをいただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを定期的に見直し出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	自分の足でトイレに行き、トイレでの排泄を最優先に、場所をしっかりと覚えていただくようマークを分かり易く表示するなどの工夫が図られている。安易にオムツに頼らず、様子を見ながら傍で声をかけるなどの支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後にトイレ誘導し排泄ケアにあたっている。看護師と相談しながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間に関しては出来る限り希望にあった時間で入浴して頂いているが夜間浴はしていない。	週に2~3回のペースで、リフト浴も活用しながら入浴支援が行われている。また、身体状況確認表を作成し、入居者の健康について毎日チェックされ、ヒートショック対策や希望に応じて同性介助を行うなど、安心して入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが休みたい時間に横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示のもと服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂けるよう、洗濯物などのお手伝いをしていただいたり、興味のある事を摸索しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は職員と一緒に歩く事はあるが、希望時に毎回行けていない。	制限のある中、感染対策をしながら散歩や買い物、駐車場で外気浴など外に出る機会を多くするよう取り組まれている。また、地域の運動会や駅伝大会の応援にも出かけるなど、職員も工夫しながら支援に努められている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で保管できる方に関して、パン屋の販売や近くのコンビニ等で買い物していただいている。その他の方はご家族と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際に対応している。 手紙は代行しポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう折り紙等で花や季節ものの飾りを作って貼っている。 また、定時に清掃を行い清潔に過ごせるようにしている。	キッチンから入居者が見渡せ、入居者と近い感覚で接することができる環境が作られている。入居者は集まって相撲やマラソン、サッカー観戦などを楽しまれ、また、生活感や季節感も味わえる飾りなども飾られ、居心地よく過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置等を都度変更し気の合う利用者同士になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や愛着のある物を持ち込んでいただいている。	居室内の安全性に考慮した家具の配置などに取り組まれ、転倒リスクを防ぐよう動線を短くするなどの工夫が図られている。家族の写真や手紙、使い慣れた衣装ケースなどが持ち込まれ、入居者それぞれの習慣も大切にされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などマークを貼付し判りやすいようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム 白虎ほーむ

目標達成計画

作成日: 令和6年2月21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	日常の訓練を通し、地域の協力体制を作りながら課題を見つけ、解決策を作り訓練に活かす取り組み。	年2回以上避難訓練等を行い、職員全員災害を意識する。	年2回以上避難訓練等を行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。